

令和元年度 英語科新任授業研修会 活動報告書

1. 目 標 「新しい時代の英語教育」
 2. 日 時 令和元年11月 7日(木) 13:15~15:30
 3. 会 場 浜松開誠館高等学校 (浜松市中区松城町 207-2)
 4. 参加者 教員経験5年程度の英語教員20名および専門委員8名
 5. 日 程 開会式 13:15~13:20
 - ①挨拶 専門部会長 常葉大学付属常葉中学校・高等学校 校長 谷野 純夫 先生
会場校 浜松開誠館高等学校 校長 高橋 千広 先生
 - ②授業者・助言講師紹介
- 授業見学 13:25~14:15
授業者：浜松開誠館高等学校 鬼頭 祐 先生
Christensen Tyler (クリステンセン タイラー)先生
学年：1年(SPコース)
科目：コミュニケーション英語 I
教材：Mainstream English Communication I (増進堂)
- 合評会 14:25~15:15
指導講評
助言講師 常葉大学付属常葉中学校・高等学校 校長 谷野 純夫 先生
- 閉会式 15:15~15:30

6. 内容

〈授業〉生徒全員が iPad を所有。アプリ「LoiLo ノート」を使用して生徒たちの意見を回収し、プロジェクトで提示するシステムを使用。
「日本の貧困問題」について理解を含め、ディスカッションする。そして自分なりの(グループなりの)解決策を模索していく

【段階1】導入

- ・画像、およびその画像に関連する英語の質問をスクリーンに映し出し、生徒たちに答えさせる
(教師は生徒たちが答えられるように、フォローする)

【段階2】展開①

- ・6分間の動画「子どもの貧困事情」(日本語)を生徒たちに見せる。
- ・動画に関するデータを英語でスクリーンに提示する

【段階3】展開②

- ・動画とそれに関するデータから、「現在日本において、どうして貧困問題が起こるのか」その原因をグループでディスカッションする。
(クラスを6グループに分割、日本語でディスカッション)
(教師は机間巡視しながら、ディスカッションをフォローする)
- ・ディスカッションし、各グループで話し合いまとめた貧困問題の原因を LoiLo ノートに書き込む
- ・各グループの書き込みをスクリーンに提示させながら、グループ代表が発表する。
(各発表後には拍手)

【段階4】まとめ

- ・日本の貧困問題に対して、自分たちに何ができるのかを考えさせる。

〈合評会〉 授業者からのコメントの後、40分間のグループワーク(英語で)、その後各グループのディスカッション内容の発表を行った(英語で)。

①授業者 Christensen Tyler (クリステンセン タイラー)先生、鬼頭先生より

授業に対する意図…

- ・本レッスンはマザーテレサについての題材。もちろん生徒たちにマザーテレサについて、そして当時のインドの貧困についてのことを知って欲しいが、貧困問題は現在の日本における社会問題であると考え、その問題について自分たちがどう貢献できるのかをも考えて欲しいと考え、この授業を展開した。
- ・このクラスは20名。もともと少ない。SPコースは学力高めの生徒を集めたクラス。普段は習熟度別に分けたそれぞれ10名ずつの2クラスだが、今回はミックスで行った。週に4時間ある授業のうち1時間だけはALTもまじえたチームティーチングでの授業。ネイティブの先生の英語の発音を浴びるような時間である。
- ・20人とはいえ、英語力の差はやはりある。英語で聞き、英語で答えられる生徒もいるが、話したいことを思うように表現できずに、話している最中に止まってしまう生徒もいるので、そんなときはJET(日本人教師)のサポートも必要である。
- ・チームティーチング以外の3時間においてもディベートをしたり、プレゼンをさせたり等、工夫している
- ・アプリ「LoiLo ノート」を授業で有効に使っている。プレゼンテーションにも使用している。

②ディスカッション後のグループ発表、および参加者たちの感想

(主にALTとのチームティーチングに関して)

- ・質問に対する答えだけでなく、考えさせることをしていた。生徒の「考える力」を伸ばすための工夫をしていて素晴らしいと感じた。iPadの使用も有効であると感じた。
- ・各校において様々な違いがある。ALTがいない学校がある。いてもALTとの授業がない先生もいる。カリキュラムも各校で違う。しかし、それぞれの学校の中での様々な授業の工夫や、事情を知ることができて色有意義なディスカッションだった。
- ・ALTとの打ち合わせをする時間が少ない。やらなければならないことは、なるべく時間を作って次の授業にどんなことをすべきかALTとの打ち合わせをしていくことである。
- ・英語が得意ではなくて、ネイティブの先生が何をしゃべっているかわからない生徒にどう教えていくかも重要な課題である。
- ・ネイティブの先生のアクセント問題もある。生徒たちの中にはユニークなアクセントを理解できない者もいる。
- ・高校生の英語になると文法が難しい。特に仮定法などは難しい文法でチームティーチングでは授業をしていくのは難しい。やはりチームティーチングに適しているのはコミュニケーションだと思われる。

③助言者 常葉大学附属常葉中学校・高等学校 校長 谷野 純夫 先生より

- ・英語におけるより良いチームティーチングをしていくためには

①ALTとJET(日本人教師)が授業において同じ目標、同じゴールを目指すことが必要であり、重要である。そのために1年、1月、1週間、そして1時間の目標の共有をしていくことが大切である。

②ALTとJET(日本人教師)がお互いを尊敬し合い、高め合い、より良い関係を築くことが必要である。そのために密なコミュニケーションが必要である。

- ・今日の授業はチームティーチングを行う上で、とてもためになったと思うので、各学校で参考にしてほしい。